



関東工業自動車大学校
理事長
中川裕之

自動車の未来が変わるとき、 自動車整備士は 『エンジニア』へと変化する

追

突を自動で回避する技術や、無人運転の技術など、自動車の性能は飛躍的に向上しています。自動車自体が高性能なPCと化し、車内で各種コンテンツが楽しめるなどエンターテインメント性が強化されるでしょう。将来的には、個人のタブレット端末がメーターや機器類の代わりになる時代が来るでしょう。また、災害時には電気自動車が非常電源になるなど新たな価値も生まれるはずです。それは、もはや従来の「自動車」という名ではくれない新しい概念の乗り物です。携帯電話がスマートフォンになり、パソコンがタブレット端末に進化したように、単なる安全で快適な移動手段ではなくなるのです。その時こそ若者の自動車離

れは解消されると確信しています。

自動車整備士の仕事も激変するはず。自動運転技術の実用化によって、最も重要になるのはセンサーです。これに不具合が生じると事故につながりますから、エレベーターの保守点検と同様、法定点検が義務づけられるでしょう。修理ではなく点検ですから、スーツを着て客先を訪れて行うような業務です。また、電気自動車の普及に伴いソフトウェアのメンテナンスが格段に増えることとなります。整備士というよりエンジニア。つなぎを着た従来の「修理工」のイメージはありません。

春に、一級自動車整備士課程修了者に「自動車検査員」資格が付与されることが決まる見込みです。これまで一定の実務経験や研修が必要であった同資格が、なぜ卒業と同時に付与されるようになるのかといえば、自動車産業にかかわる若者に希望を与えたいという国の意思の表れだと私は思っています。

一級自動車整備士には電気やコンピュータの専門知識に加え、安全で快適な運転をユーザーにレクチャーできるだけのコミュニケーション能力が求められます。試験に面接が課せられているのもそのためです。人の命を守る崇高な仕事だけに「自動車が好き」だけでは務まりません。4年制というゆとりある教育課程が生まれた所以です。

【理事長プロフィール】なかがわ・ひろゆき●1950年生まれ。慶應義塾大学卒業。78年、青山中川美術館を設立し館長に就任。83年、正興産業株式会社代表取締役社長に就任。同年、学校法人正興学園理事長に就任。全国自動車大学校・整備専門学校協会会長。

【学校プロフィール】1979年創立。一級自動車整備科、二級自動車整備科、車体整備科。

若者に伝えたいのは、自動車産業が今なお日本の基幹産業である以上、自動車整備士の仕事は絶対になくなるというえ、需要は増えていくだろうということ。さらには、整備士に限らず、広く自動車産業界で活躍してほしいと思います。ディーラーの営業職や、自動車雑誌の編集者、損害保険会社、自衛隊など、本校卒業生の就職先は多岐にわたります。いずれも自動車整備士の国家資格をもつことが大きなアドバンテージになっているはずです。